

項目	評価指標	学校の自己評価 結果の考察・分析及び改善策等	自己評価		学校運営協議会委員の意見	評価
			指標別	総合		
1 かしこい子	① 学習内容の定着・学力の向上 ・基礎学力の定着 ・家庭学習の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学力テストの結果、個人差が大きく、応用に関する内容の正答率が低いということが分かった。また、アンケート結果で、スキルタイムの効果的な活用も課題であることが分かった。その改善策として、次のような4点を行っている。 <ol style="list-style-type: none"> ① 個に応じた指導（個別最適な学び）の充実を図る。 ② 単元計画及び、本時の指導計画に習熟の時間を設定する。 ③ 社会（生活）に生かせる評価問題について考えさせることで、応用力の幅を広げられるようにする。 ④ スキルタイムにおいて、タブレットドリルに取り組みさせる。 ○ 家庭学習の取組について、担任がしっかりと見届けをしている。よりよい宅習を学級通信等で紹介するとともに、学力向上通信にて家庭への啓発を行った。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習やスキルタイムに対する評価が低い。まだ、伸びしろがあると考えるの評価だと思う。 ○ 最後の参観授業では、自分ができるようになったことを発表する場面があり、よかった。1年生はなわとび、4年生は笛の演奏などの披露があった。 ○ よりよい宅習を学級通信で紹介したり、学力向上通信で家庭への啓発を行うのは、有効だと思うので継続してほしい。 	3
	② 表現力の向上 ・自分の考えを書いたり、発表したりできる時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○ 複式の授業を意識した授業改善を行っている。その際、児童が主体的に課題解決に取り組めるような授業づくりを行ってきた。自分たちで考えを練り上げ、意見をまとめる活動を通して表現力の育成を図ってきた。 ○ スキルタイムでは、様々なパターンの条件作文に取り組みさせた。文量や段落の構成、事実と感想の整理など工夫して取り組めるようにした。さらに、リーディング・スキルの読み取りを継続させることで、表現力アップの一助としたい。 	3		<ul style="list-style-type: none"> ○ フリー参観の時、1・2年合同生活科の授業で、お祭りごっこを行い、それぞれのブースで遊び方の説明が上手にできていた。3年生の算数では、どうしてそうなるのかを友だちと考えて発表できていた。4・5・6年の習字では、自分の目標等をそれぞれが決めて文字に表していた。どの学年も発表の場が設定されていた。 ○ 参観日の学習では、調べたことをICT機器を活用して発表できていた。 	
	③ 読書活動の推進 ・読書意欲の向上 （目標貸出冊数 2500冊） ・図書環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読書通帳や読書おみくじの取組に加え、読書すごろくの取組を行った。昼休みの図書運営や企画の計画・立案等、図書委員の意欲的な活動が見られた。 ○ 図書司書による図書室の整備が図られ、本を選びやすい環境が整った。 ○ 図書貸出冊数が昨年2758冊、児童1人当たり56冊に対して、本年度は2379冊、児童1人当たり50冊と減少している。次年度は図書室利用を積極的に呼びかけ、読書貯金通帳等に加え、新たな手立てを講じていきたい。 	3		<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童に読書の面白みを感じさせる取組がほしい。 ○ 読み聞かせでは、絵本だけでなく、文章を読む読み聞かせもよいと感じた。 ○ 紹介された本を探して読む児童もいるので、本の紹介を地道に続けてほしい。 	
2 やさしい子	① 基本的な生活習慣の定着 ・有明小のあたりまえの実践 ・あいさつの奨励	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年度当初、「有明小のあたりまえ」を全職員で確認し、あたりまえ徹底週を毎月始めの週に設定し、基本的な生活習慣の定着を図るために各担任が共通指導を行った。それにより、生活の決まりを守ろうとする意識が高まった。 ○ あいさつに対する教師評価が下がっている。本年度もあいさつ運動期間を設定し、地区ごとに校門に立ってあいさつを行った。また、代表委員会の児童（高学年中心）が定期的に校門の前に立ち、あいさつをすることで下学年のよい手本となっている。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登校時の朝の元気なあいさつで元気をもらっている。あいさつ運動では、地区ごとに校門であいさつを行い、元気のよい声が響いている。とてもよい活動なので継続してほしい。 ○ 見守りしていると、自分からあいさつをしてくれる児童が増えてきていて、うれしい。 ○ できることから始めるのがよいので、まずは、家庭での「おはよう」「おやすみ」などの簡単なあいさつを充実させるとよいと思う。 	4
	② 心の教育推進 ・教育相談、いじめ防止対策委員会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎月、児童に心の教育アンケートを実施することで児童の困り感を把握した。その内容や日頃の指導をもとに、いじめ防止対策委員会を全職員で行い、状況と指導内容を共通理解することで、担任だけでなく全職員で共通した指導が行えるようにした。 ○ 不登校傾向の児童がいるため、管理職や担任、養護教諭を中心に、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、家庭児童相談員などの関係機関と連携を図りながら指導・支援を行っている。 	4		<ul style="list-style-type: none"> ○ 心の教育アンケートを全児童取り、児童の悩みを全職員で共通理解し、全職員で指導しているところがよい。継続をお願いしたい。 	
3 たくましい子	① 健康の保持増進に関する理解 ・健康な生活リズムを守ろうとする児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期的に生活リズムチェックを実施するとともに、「保健食育週間だより」を発行した。週末にメディア利用の時間が多くなっている児童もいるため、「有明小版メディアルール」を守れるように指導を続けたい。 ○ おし歯の治療率は、現在58%である。（昨年68%）引き続き、受診するよう呼びかけたい。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ メディア利用の割合は、これからも高くなると予想される。「有明小版メディアルール」をさらに浸透させてほしい。 	4
	② 基礎体力と運動技能の向上 ・進んで運動する児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の運動に対する評価は高く、昼休みも外遊びをよくしている。体力向上の時間は、保健体育委員会による鬼ごっこやリレー遊び等の紹介を行い、昼休みの遊びを奨励した。 ○ 大谷選手から寄贈していただいたグローブを使用する方法を委員会を中心に考え、積極的に活用した。 ○ 冬季に持久走・なわとび旬間を設定し、体力向上を図った。学習カードを活用したり、一定基準を達成した児童を紹介したりしながら、意欲の向上を図った。 	4		<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動会では、少人数ながらも赤白に分かれ、高学年がリードしながら、応援、競技、表現等、1人1人が元気いっぱい頼もしかった。 ○ 昼休みに元気に外で遊ぶのはとてもよい。長期にわたって運動できるように仕組んでいきたい。 	
4 地域 家庭との 連携	① 家庭との連携 ・親子読書の実践 ・ノーメディアデーの実践	<ul style="list-style-type: none"> ○ ノーメディアデーを設定するとともに、家読への呼びかけを継続した。ノーメディアデー当日の取組を児童自身が呼びかけることで意識は少しずつ高まっている。 ○ 親子読書については、児童・保護者・教師ともに意識が高まり、評価が上がってきている。引き続き呼びかけを継続したい。 	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 串間市立図書館への施設見学を実施すると読書への関心が高まり、読書量増加や親子読書につながるのではないかと。 ○ メディアを使わなくても楽しく遊べることを伝えていけるとよい。 	4
	② 地域との連携 ・地域と連携した活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 有明校区社会福祉ふれあい推進協議会と連携し、学校行事を知らせることで、多くの地域の方の参加があった。運動会、グリーンタイム、もちつき等、昨年より参加が多く、交流しながら充実した時間になった。 ○ 「今町地区の盆踊り」、「木代神社秋祭り」のお知らせを児童・保護者にし、地域行事への参加を呼びかけた。また、串間市秋まつりパレードに3・4年生が学校代表として参加した。 ○ 1月に「有明小学校地域交流グラウンドゴルフ」を実施し、地域在住者と6年生で親睦を深めることができた。 	4		<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度より校区内10自治会の輪番制で学校行事に参加し、児童との交流により地域の方の生きがいづくりに寄与している。参加された有明小OBの方が懐かしがっていて好評だった。今後も地域の方へ学校行事の周知をお願いしたい。 ○ 地域交流グラウンドゴルフは、他の地域在住者とも交流を行っていきたい。 	